

混沌とした中から

混沌とした世界にどっぷり浸かって (9)

NetWareの評価以外にもいろいろ変わったことをやっていました。面白かったのは電子カタログのデモシステムの作成です。

このシステムは某大手家具センターからの話で作成したシステムで、基本は、大量の家具のカタログの中からメニューを選んでいくことによって家具を選び出し、その画像を表示するものです。今であれば、動画キャプチャもごく普通に出来るのですが、その時使用したパソコンはCPUが80486DX2のMAXYDT2の時代ですから、画像キャプチャのボードがほとんどない状況でした。その中で選択した高性能ボードがINTELのボードでした。このボードはビデオキャプチャのボードで、パソコン画面上にビデオオーバーレイできるボードです。ビデオオーバーレイできるのですが、パソコンのビデオボードと本体内で接続する必要があり、また、VGAのボードである必要がありました。しかしこの当時のMAXYはAX規格であり、表示はJEGAではした。JEGAは日本語表示こそ640×480でしたが、英語表示は640×400というEGAという規格であったためそのまま使うわけにはいきませんでした。そのため、日本語表示をあきらめVGAボードを入れ、OSも英語版のMS-DOSを使用することになります。これでボードは使えることになったのですが、ビデオ信号を取り込んでパソコン上で表示させることは簡単にいくのですが、こちらとしてやりたいことは指定の静止画像を取り込んで画面表示(複数表示です)しなければなりません。ボードにはサポートプログラムがありコマンドを使う事によって可能とはなっているのですがなかなか理解できません。大体コマンドの説明書を含めそのほとんどが英文です。というので一度INTELの本社のある筑波にお邪魔していろいろ教えてもらったこともあるのですが、このボードの担当者もボード自体が動画キャプチャすることを中心に使っていたものですから、静止画のキャプチャについてはほとんどやったことがないという状態でした。それでも何とか出来る(もちろん私がやったわけではないのですが)ようになったわけです。ところで画像ですが、家具センターの画像はレーザーディスクになっていたのでRS232-Cで制御できるレーザーディスクプレーヤを利用しました。また、その当時VHSのビデオにはRS232-Cで制御できるものがあつた(現在は規格外ということで存在しません)のでそれを利用し、パソコン画面をビデオ撮影(夜に会社で暗幕を張って撮影)してデータを作ったりしました。これをプライベート展に出品(家の平面図を表紙し、部屋を指定することにより該当する照明器具を表示するもの)することになったのですが、開発が遅れたためにメニュー部分と画像制御部分を分担して作っていて、いざ現場でつながらないという状況になりました。実は、メニュー部分をQuickBASICで私が作っていたのですが、完全な英語環境では動かないというものでした。システムが組みあがった夕方から、急遽全部をC言語で書き直すということを展示会現場で実施することになりました。使ったこともないC言語です。しかしメニュープログラムを作った本人がしなければどうしようもありません。しかし何とかなるもので、JRを含め交通機関がなくなったとはいえ、何とかその日のうちに終わり次の日からの展示会には何とか間に合ったものでした。実はこのときにいろいろ著作権について体験したのです。住宅展示場のパンフレットにある自由宅の平面図、外形図をそのまま使うことは出来ないとか、市販されているレーザーディスクの画像を利用して展示する場合も販売者に確認と許可をもらわなければならないなどです。このときには他にもフロッピーに画像を保存するデジカメのマビカなども使っていました。

(次回へ続く)

(今週の情報誌から)

○日経エレクトロニクス 2月28日号

特集 Cell 誕生

→Cellは次世代ゲーム機に使用することを念頭に開発されてプロセッサ。確かにゲーム機をスタートにはなっているがそのポテンシャルは高く、ホーム機器からワークステーションまでの搭載が可能となっている。コアはPowerアーキテクチャの中心コアに対して8個の信号処理プロセッサを搭載し、1つのチップの中に9個のコアを持つ。これを動作周波数4GHzで動作させることにより浮動小数点演算で256GFLOPSの性能をたたき出す。これは現在パソコンの中心のPentium4の実に15倍以上になる。これから製品開発になるがどのようなものに組み込まれるか注目される。

○日経バイト 3月号

特集 「やわらかい情報処理」再び

→今ユビキタスが流行のように、10年ぐらい前に流行った言葉で「ファジー」というものがありました。カメラのオートフォーカスや自動車の自動変速機から炊飯器まで使われた言葉で、あいまいという概念を制御に取り込んだものでした。以前のファジーは一部には残っていますが、別にファジー制御でなくても目的が達成することが出来るようになったので使われなくなったものです。コンピュータ業界の関心が生産性と効率に向かったからですが、今情報技術の進化が踊り場を迎えた現在、コンピュータと人間を変える切り札として再登場するかもしれない。

○N+I NETWORK GUIDE 4月号

特集 SoftEther VPN2.0はユーザ要求にこたえたか？

→SoftEtherは1年ぐらい前に登場した、インターネットを利用して外部から会社内のネットワークにファイヤウォールがあっても接続できるというツール。使い方によっては情報漏洩の危険もあったが、今度のVPN2.0はビジネス機能を強化し、既存のVPNに比べて導入、運用管理が容易でセキュリティが強化された。ビジネスに本当に使えるようになったか検証する。